

西海ブロック水産業情報

NO. 97 (平成29年4月～6月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
<p>特になし。</p>	<p>○筑前海 今漁期のフトモズク養殖生産量は4.5トンで、平年並みであった。網を洗浄している組合は好調であったが、洗浄していない組合では他の海藻が繁殖し不調であった。</p> <p>○豊前海 【カキ養殖】 ・魚類による食害多く、食害対策を実施中。成長は良好に推移。 ・薄めで不良の宮城県産種苗があり、一部漁業者は別途広島より種苗調達。研究所で浮遊幼生調査を実施中。 【栽培関連】 ・クルマエビ及びヒガザミの中間育成を実施。 ・「かぐや装置」によるアサリ稚貝生産、干潟での放流試験を実施中。 【資源管理】 ・5月から、抱卵ガザミの再放流を実施。6月末で3,500尾実施。</p>	<p>○有明海 ・クラゲ資源保護 近年、夏場の重要な漁獲対象となっているビゼンクラゲの資源保護を目的として、佐賀県有明海区漁業調整委員会指示により、傘幅40cm未満の採捕禁止や、禁漁期(～7月4日まで)、禁漁区の指示を行った。 ・養殖カキ 平成28年11月中旬に宮城県から購入した種苗を、4月下旬から5月中旬まで抑制飼育した後、沖合の24基の筏(19経営体)で養殖している。なお、購入した種苗は、販売元である宮城県の業者での採苗が不調に終わったこともあり、垂下連の原盤あたりの種苗の個数が昨年に比べて少ないとのこと。 ・アサリ 6月に太良町の多良川および糸岐川河口干潟で分布量調査を行った結果、稚貝の分布密度は過去2年と比べ、低水準であることが確認された。</p> <p>○玄海 ・アカウニ: 4月上旬から5月中旬に放流用約26.3万個(10mmサイズ)を配布終了。 ・カサゴ: 5月上旬から下旬に全長40～50mmを約10万尾配布済。7月中旬に全長50～60mmを約3千尾配布予定。 ・クロアワビ: 平成27年度産: 4月中旬に放流用約3千個(30mmサイズ)を配布済。平成28年度産: 殻長14.2～19.0mm約10万個飼育中(6月上旬)。 ・ナマコ: アオナマコ約78万個、アカナマコ約137万個飼育中。アオナマコは6月中旬から下旬に約44万個配布済。アカナマコは7月上旬から配布予定。</p>		<p>・クルマエビPAV発生(養殖場での発生は4年ぶり): 県外から種苗導入後約2週間目に発生(3地区でほぼ同時発生)。全数処分。 ・例年同様、5月にカンパチのエラ虫症によるへい死が発生。</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>スジアラ種苗生産: 6月下旬から種苗生産試験中(60t 2面) イワガキ種苗生産: 6月下旬から種苗生産試験中</p>	<p>○藻類(アカモク)養殖試験 平成28年4月上旬に入手した大分県佐伯湾の母藻を用いて種系を作成し、秋季から水試陸上水槽にて初期培養を行い、平成29年2月に藻体長約0.9cmになった種系約60mを県南(日南市目井津地先)に展開し、養殖試験を行った。過去の県北での試験養殖結果では3月末時点で数mの伸長がみられ、成熟個体もみられたが、今回は3月末の段階で藻体長が数cm程度の伸長しかなく、「母藻の由来の違い」、「県北に比べ水温が高めに推移し、かつ、秋季からの水温低下が遅かったこと」等が影響し、生育が遅くなったものと考えられた。その後、養殖試験を継続し、5月17日時点では藻体長約1mまで伸長し、約24kgを取り上げ、また、生殖器床を持つ個体のほとんどが採苗可能なほど成熟していた。</p>		